

きょうの紙面

ユニバーサルデザイン食器開発中… 4面
 車歩道境界ブロック撤去…………… 8面
 川のある街盛岡の橋の風景…………… 10面

盛岡タイムスは40周年を迎えました

盛岡タイムス

4月8日

2010年(平成22年)

(木曜日)

(昭和44年12月1日第三種郵便物認可)

第14037号

発行所
盛岡タイムス社
 〒020-0015 盛岡市本町3丁目8番3号
 電話 (019) 833-3111(4)
 F A X (019) 822-5119
 (019) 823-8204
 日刊 購読料月極2,200円
 http://www.azuma-times.com

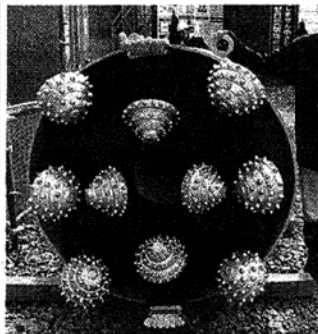
「推進法」で日本最長記録

盛岡市の旧下水道部 土中潜って770メートルに管新設

交通規制不要、コスト減も

盛岡市の旧下水道部は、同市神子田町地内にある既存の下水管廃止に伴う新設工事で、地面と並行し地中を削って下水管を送り込む工法「推進法」の到達距離が日本最長記録と認定された。狭い通行量の多い市道に規制をかけず、歩行の利便性や歴史の街並み景観など地域事情に配慮。数千万円単位のコストダウンも図った。

起点は神子田町地内、点で終穴を掘り(立)圧力をかけて土砂の摩擦を防いだ。カッの国道4号南大橋東側(坑)、地面と並行し土崩れを予防し、抵抗をターが刃こぼれすれば路と市道に分岐するY管を送り込む。今回は字路。終点は同市館屋内部の直径1.1メートルの町地内の大慈清水付コンクリート管を通した。先端が切羽状の先近。市道に沿って管が導体と呼ばれる機械が通る延長約770メートルの区間。



土中を掘り込んだ先導体の正面



開削ではなく推進工法で最長記録に認定された下水管が埋設される盛岡市神子田町地内の市道の工事起点(南大橋側から撮影)

になり、立坑を増やせば穴を掘るコストが生じる。地権者との用地補償も必要だ。

工事は08、09年度の2カ年で昨年3月に先導体を送り込む11月に削る作業が終わった。作業ペースは1日平均で3〜4メートル程度。全延長にわたり地面を掘って管を埋めれば、通行規制が必要になる。大慈清水の水質や城下町風情の残る町屋の景観、神子田朝市など観光スポットも立地し、民家も近い。

この工法でも河川に近いため直径が最大60センチの玉石など砂れき層の地中を掘ることになり、切羽が途中で摩擦するリスクなど課題があった。区間にはカーブが8カ所もある。

同部建設課(現上下水道局下水道整備課)は以前の事例から先導体の仕様を念頭に検討。一発勝負で成功するよう周到に準備。今回の最長記録を樹立した。施工は市内の建設業2社の特定共同企業体。

起点から南側30メートルを整備すれば、国道9号の管とつながる。5月の完成予定。全国の都市の下水は昭和30年代ごろまでに敷設されたものが多く、雨水と家庭の生活雑排水を一緒に流す合流方式で、大水などで不衛生な水が河川に流れる問題があった。

国は法改正し、19年度までに合流式の改善を義務づけた。市内では今回を含めて全体の6割を改善。今後中津川上流部の上の橋方面の事業に着手する。地理的条件から推進法以外の工法も含めて事業を行う考え。